校長室だより

共学共高

第43号

令和５年４月27日発行

発行責任者
白梅学園高等学校長
武　内　　彰

１学年オリエンテーション遠足～＠箱根その2

１年生のオリエンテーション遠足の続きである。

「ぷちアドベンチャーゲーム in 箱根」に挑戦するために、すべての生徒たちがアリーナを出発した。心配した雨も降らずに、外を歩き回るにはいい条件である。私は本部待機なので、待機場所となる会議室へ向かおうとしたところ、このゲームの運営スタッフの方が声をかけてくださった。「これから車でチェックポイントを回るのですが、ご一緒にいかがですか？」何と、ありがたいお言葉であろうか。それならば、生徒たちの様子が直接見られるではないか。「お願いします」と即答した。

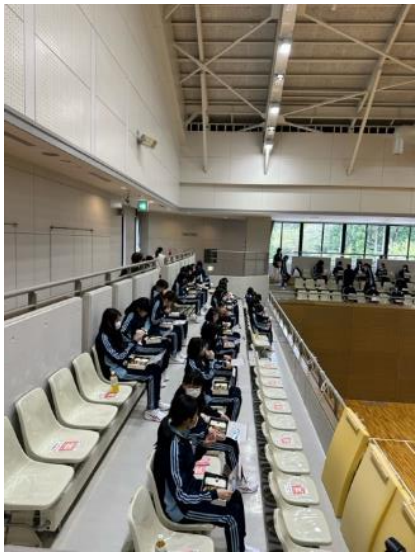
このスタッフの方は、箱根や他地域においても、こうしたゲームを数多く運営されてきたが、「仲良しチームによる班分けではなく、ランダムに班分けをしたというのはなかなかいいことですね。社会へ出れば、そうしたチームの中でいかにコミュニケーションをとっていくかということが大切になるのですから」とおっしゃっていた。確かにその通りだと思う。

チェックポイント５へ向かう途中で、生徒たちに逢う。どうやらコースを外れて違う方向へ向かっているようだ。「車窓から反対だよ」というジャスチャーをして、ヒントを与えた。その後、そのチームは正しい方へ修整していたので一安心だ。

さらに、姥子駅方面へ向かう途中で、複数のチームと遭遇する。スタッフの方が車から降りて、生徒たちの質問に答える。中には、コンパスの正しい使い方をレクチャーしてもらっているチームもある。地図の等高線は読めても、主要な道路から獣道のような道へ入っていくポイントを読み取れないと、厳しそうだ。「見つかったかい？」と尋ねると、「はい、ありました」と答えるチームもあれば、「見つかりません」というチームもある。地図、コンパス担当と周囲を見る担当とに分かれて、チームプレイをすることが大切なようだ。

続いて、チェックポイント６へ向かう。ここではスタッフの方が控えていて、このポイントに到着したチームに課題が出される。具体的には、チームの一人が目隠しをして、周囲のチームメイトがその生徒の身体に触れることなく、言葉だけで誘導して、カラーボールが撒かれた地点まで誘導する。異なる３つのカラーボールを拾えたらポイントが入る、というものだ。それ以外にも、赤い花が固定された木の枝を見つける、といった課題もある。それを見つけても、「あったーあったー」などと言わずに冷静でいることが肝要だ。他のチームに悟られてしまうからだ。そういう意味では、落ち着いたチームが多かった。終了時刻よりも前に、私たちはアリーナへと戻った。

帰還してくる生徒たちに「おかえり」と声をかけながら、玄関で迎えた。「疲れたー」「３つしか見つけられませんでした」「一つも見つけられませんでした。単なる山登りになってしまいました」と、生徒たちの反応はさまざまである。最後のチームが戻ってきて、お弁当をいただく。クラスごとにアリーナの観客席に分かれて、食事をとった。



閉講式では、スタッフの方からの成績発表、そして私からの表彰を執り行う。時間が押してしまっていたので、表彰は１チーム、１クラスのみとした。私の講評も割愛した。優勝チームは、５組の「徳川家光」チーム、総合優勝クラスは３組であった。おめでとう。

その後、バスに乗り込み、桃源台まで移動する。貸切の海賊船に乗って、芦ノ湖遊覧である。箱根港町までの楽しいひと時を過ごす。私は、ファーストクラスに座らせてもらった。もちろん、生徒たちも入室可である。そこからは乗組員の方の操船の様子も間近で観ることができる。生徒たちが複数来て、談笑してくつろいだり、操船の様子を見たりしている。ある生徒から「校長先生は外に出ましたか？」と聞かれたので、「まだ出ていないよ」と答えると、「寒いです」と教えてくれたので、外には出ないことにした。港町に着岸した後は、クラスごとに集合写真の撮影である。私も８クラス全部に入らせてもらった。５組の撮影の時には、ある生徒から「校長先生も左手でポーズをとってください」と言われたので、隣の生徒に、今はやりの「ハートの半分」の形をつくって見せて、「これですか？」と尋ねたら、失笑された。単に、左手をジャンケンのパーの形にすればよいだけであった。先に言ってほしかった。

再びバスに乗車して帰路につく。さすがに、どの生徒も疲れた様子で、ほとんど会話は聞

こえてこなかった。

友達との交流を通して、チームやクラスの親睦を深める、そして学年の一員でもあるという連帯を持ってほしい。これからさまざまな出来事に直面していくが、みんなで乗り越えていってほしい。心の底からそう思う。3 年後に素敵な笑顔で卒業式を迎えてほしいものだ。それが私たち教職員の願いでもある。

JR 国立駅大学通りに到着した 1 号車から順番に、生徒たちが降車し、駅へと向かっていった。

教職員も業者さんと共に、打ち合わせをして解散である。

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）